

„Hallo-Deutschland“ 成城学園初等学校でのワークショップ

2018年10月24日に、„Hallo-Deutschland“コンテストの優勝チーム、阪井健人さんと一圓涼介さんが、成城学園初等学校の5年生のクラスで「Eスポーツとドイツ」というテーマで1時間のワークショップをおこないました。38人の生徒は、走るドローン・ロボットで対戦するミニゲームを体験しただけでなく、ドイツ語を学ぶ機会を得ました。

二人は、パワーポイントを使い、小学生たちをすぐにテーマにひきつけました。直接生徒たちに話しかけ、「ドイツについて何を知っている?」といった質問をし、日本でも人気のある「典型的なドイツ」の食べ物（ソーセージやバウムクーヘン）の写真をみせることで、ドイツという国とドイツ語について関心を呼び起こしました。

Eスポーツと学習を結びつけるものとして、阪井さんと一圓さんは、わくわくするゲームを考えました。ドローン・ロボットにはカメラがついており、その映像がPCとプロジェクター経由でスクリーンに投影されます。

教室の後ろのスペースに、「Fußball（サッカー）」「Danke（ありがとう）」といったドイツ語の単語とイラストの入ったカードが並んでいます。ミニゲームでは、画面だけをみながらドローンをPC上で操作して、スペースに並べられた単語カードのなかから、指定されたものを見つけます。2人の生徒は、それぞれ早くカードを見つけようとがんばります。声援をうけながら、生徒が正しい単語カードを見つけたあとには、大学生による単語の意味と発音の説明があり、生徒たちも発音練習をしました。

数回ゲームをしたあと、第二部にはいり、ここでも生徒たちの積極的な参加が求められました。ドイツのEスポーツリーグ大会の短いビデオとプレゼンテーションを見た後、生徒たちは、Eスポーツはスポーツか、という問題について討論しました。その際に、Eスポーツとスポーツの共通点とちがいに注目し、自由に意見を出し合い、自分たちの経験を話しあいました。コミュニケーションな雰囲気の中、生徒たちは活発に意見をだし、みんなの前で発表していました。

最後に生徒たちが元気に「Auf Wiedersehen（さようなら）」とあいさつをし、ドイツ語とEスポーツの両方に興味を持ってもらったワークショップが、無事に終了しました。

ワークショップをおこなった阪井さん、一圓さん、そしてご協力いただいた成城学園初等学校の先生方ならびに生徒のみなさんに、この楽しい時間をつくってくださったことに感謝いたします。

（ドイツ語：アンナ・ライネン、訳：丸山智子）